



2025年度のFD・SD研修会を振り返って

学長 矢野 泉

FD・SD研修会は、本学の課題やおかれている環境、将来の目標、各学部・研究科や部局の取り組み等、教職員がともに情報を共有し、考えていく重要な機会と位置づけられています。

本年度の第1回FD・SD研修会（修道力フォーラム）は、「本学の特色ある取り組み」をテーマとして、7学部長から各学部の特徴やカリキュラムのねらい、独自の教育的取り組みなどをお話いただきました。このテーマを取り上げるきっかけとなったのは、2025年度に大学基準協会による第4期認証評価を受審するため、2024年度内にその評価資料として作成した『点検・評価報告書』です。認証評価に先立ち、『点検・評価報告書』にそって、各学部、研究科は分野別外部評価委員、大学全体としては総合外部評価委員による評価を受けました。その際、課題や改善点等のご指摘もいただきましたが、それ以上に各学部・研究科の取り組み、大学全体の取り組みについてのよいところをたくさんあげていただきました。その時ふと、そうした外部から高い評価を受けた取り組みを、大学の中にいる私たち自身が知っているか？という問いが生まれました。そして、それらの取り組みを認証評価対応に関わる教職員だけでなく、全ての教職員とぜひ共有したいと思った次第です。各学部長の言葉で、わかりやすく、また時にユーモアを交えて語られた各カリキュラムに込められた学びの流れやねらいによって、各学部の教育の特徴をより明確に理解することができたのではないのでしょうか。自分たちが勤める大学の教育をより深く知ることが、教職員ひとり一人のエンゲージメントを高める機会となっていれば幸いです。ご多忙の中ご登壇いただいた学部長の皆様、ありがとうございます。

ました。今回は学部のみでしたが、今後研究科や各部局の取り組みを共有する機会も検討していきたいと思えます。

第2回FD・SD研修会では、「情報セキュリティに関する最新の事例と対策（サイバー犯罪の現状と対策）」をテーマに、広島県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課から講師をお招きし、サイバー犯罪の現状、その具体的な手口や攻撃を受けやすい環境、サイバー犯罪の被害を防ぐ対策等についてご講演いただきました。近年、ランサムウェア攻撃など大規模なサイバー被害を受ける金融機関や民間企業が増加していますが、教育機関も例外ではありません。今年度だけでも数多くの被害が報告されており、中には複数回の攻撃を受けた大規模大学や、県内の私立大学の例もあります。実際本学においても、不正アクセスはいくつか発生しています。幸いにも現在大きな被害にはつながっていませんが、ネットワーク上のどこからいつ大きな攻撃被害を受けるかわからないことを、この研修会で改めて学ぶことができたのではないのでしょうか。一度攻撃を受けると、様々な情報が暗号化され、システムが不能となり、業務や学生サービスの提供ができなくなるだけでなく、学籍情報や教職員情報等大学が所有する多くの個人情報に危機にさらされます。これに対しては、組織としての対策強化と同時に、教職員ひとり一人がその重大性を認識する必要があります。広範な被害と大学の信用性の失墜が想定されるサイバー犯罪の被害にあわないよう、日頃からひとり一人が情報セキュリティに関する情報をアップデートし、大学としても引き続き情報セキュリティ対策の強化に努めていきたいと思えます。

2025年度 第1回 FD・SD 研修会

テーマ「本学の特色ある取り組み」

取り組みの共有に向けて

副学長 増田 尚史

本研修会では、各学部の特徴ある取り組みを学部長にご紹介いただきました。あえて分類してみると次のようになるでしょうか。まず教育の工夫として、体験・実践の授業（商）、実務家による授業・講演会（法）、環境プロジェクト（人間環境）、初年次教育におけるピア活動（国際コミュニティ）などのご紹介がありました。内部質保証にかかわる取り組みとしては、PDCA 票（経済科学）、Can-do リスト（健康科学）などがありました。さらに社会貢献に関しては、Cafe Sociologie・Education Challenge・通訳活動（人文）、地域援助実践体験・ひろしま地域食材レシピ開発・

貧困救済プロジェクト（健康科学）、体験実践・地域プロジェクト（国際コミュニティ）などの紹介がありました。他にも、ハラスメント防止対策（商）、インターンシップの工夫（人文、法）、資格取得の支援（経済科学、人間環境）などについてご紹介がありました。これらの中の一つでも、「そんな工夫をされているのか」という驚きが聴者一人ひとりであったとすれば、そしてその驚きが、教職員間で、あるいは学部間で、互いの活動に関心を向ける契機になったとすれば、企画者としては幸いです。

健康科学部の取り組み

健康科学部長 中西 大輔

健康科学部ではエビデンスに基づく教育と地域社会に貢献できる人材育成を推進しています。心理学科では、学修成果を明確化するために25項目からなる Can-do リストを整備し、4年間で身につけるべき能力を体系的に示しています。また、Moodle を活用した情報共有体制を整え、子育て支援、障害児支援、薬物乱用防止活動など、地域での実践的活動を通じて専門性の社会的応用力を育てています。一方、健康栄養学科では、広島県の地産地消事業への参加を通して農園見学や地域食材を用いたレシピ開発を行い、食と地域のつながりを学んでいます。

さらに、フィリピン・セブ島の貧困地区300世帯を対象とした国際栄養支援プロジェクトを実施し、食事調査から改善指導まで継続的な活動を展開しています。この取り組みでは、栄養バランス理解の向上や体調改善など、住民の行動変容が確認されています。加えて、管理栄養士国家試験に向けた体系的な模擬試験・講義体制も構築し、学生の専門的成長を強力に支援しています。これらの活動を通じて、健康科学部は大学での教育・研究成果を社会に還元するという教育理念を実践し、多様な現場で活躍できる人材育成を進めています。

2025年度 第2回 FD・SD 研修会

テーマ「情報セキュリティに関する最新の事例と対策」

教職員一人ひとりが支える情報セキュリティ

情報システム課長 谷 好充

第2回 FD・SD 研修会は、近年増加するサイバーインシデントを踏まえ、「情報セキュリティに関する最新の事例と対策」をテーマに、教職員の情報セキュリティ意識の向上を目的として開催した。講師には広島県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課の担当者をお招きし、最新の情勢や実際の被害事例を交えた講演を行っていただいた。

講演では、全国及び広島県におけるサイバー犯罪の発生状況が示され、インターネットに接続された機器を有する組織は、規模を問わずサイバー攻撃の対象となり得ることが説明された。併せて、ランサムウェア攻撃やサプライチェーンを狙った攻撃、Web サイト改ざん等、組

織を標的とした代表的な攻撃手口とその被害実態が紹介された。特に、近年主流となっているランサムウェア攻撃については、業務継続に深刻な影響を及ぼす事例が多いことが強調された。

また、情報セキュリティ対策は、物理的・技術的・人的対策の三要素から構成され、とりわけ人的対策の重要性が指摘された。不審なメールへの対応やバックアップの取得、インシデント発生時の初動対応等、教職員一人ひとりの行動が大学全体の情報セキュリティを支えている。本研修会を契機として、日々の教育研究活動及び学校事務における情報セキュリティへの意識が、より一層高まることが期待される。

各種研修会参加報告

私大連「FD 推進ワークショップ」参加報告

商学部 高田 裕

2025年8月7日から8日にかけて日本私立大学連盟（私大連）が東京で実施した「FD 推進ワークショップ」に参加してきました。本ワークショップは、主に新任教員を対象とし、模擬授業の実践を通じた授業改善を図るプログラムでした。参加者を複数のグループに分け、各グループ内で全参加者が模擬授業を実施し、相互にフィードバックを行う形式でした。

私が所属したグループは、専門分野が経営学・医学・看護学・経済学・言語学・教育学と幅広く様々でした。各先生の模擬授業は大変個性にあふれており、専門知識がなくても興味深いものでした。授業の導入部分に、グループワークやクイズなどのアクティブラーニングの手法が使われる先生が多かったです。授業内で能動的に学習することで、「授業中にやる気を出させること」「やる気になると理解も深まること」の重要性に加えて、楽しみながら勉強するのが最も大切なのだと改めて実感しました。

また、参加者の先生方と授業方法などの悩みを共有でき、相互にアドバイスする時間もありました。自分だけでは絶対に思いつかない解決法などを得る貴重な機会となりました。本ワークショップで得た経験・知識を普段の授業運営に活かしていきたいと考えます。

私大連「FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」

健康科学部 藤川 卓也

今回の私大連 FD ワークショップへの参加を通して、授業改善に対する自身の問題意識に変化が生じたように思います。これまでは、授業資料の構成や説明の仕方など、「いかに内容をわかりやすく伝えるか」という教員側の工夫に重点を置いてきました。しかしそれは、学生の理解を意識しているようで、実際には学生がどのように受け取り、どこでつまづいているのかを十分に捉えきれていなかった視点でもあったと気づきました。グループワークを通して、他大学教員の実践を聞く中で、授業運営においては学生の反応を丁寧に把握しながら学びを調整していく姿勢が重要であることを再認識しました。特に大人数授業では、発言を求めただけでなく、考える時間を確保し、表情や態度から理解度や関心を読み取る工夫や、ICT ツールを活用して匿名で意見を集める方法が有効であると学びました。

また生成 AI の教育利用についても認識が変化しました。学生の利用が広がる現状を踏まえ、使用の是非ではなく、どのように活用するかを授業の中で扱う必要性を感じています。今後は特に少人数授業において、倫理的配慮を含めた活用方針を学生と共に検討する機会を設けていきたいと思えます。

私大連「FD 推進ワークショップ」参加報告

健康科学部 嶋崎 太一

2025年8月7日～8日、東京都アルカディア市ヶ谷にて開催された日本私立大学連盟主催のワークショップに参加させていただいた。全国各地から34名の先生方が参加し、6つのグループに分かれて模擬授業や課題の共有を行った。私の属したグループでは、心理学、看護学、工学、経営学、国際関係学、そして哲学・倫理学（私）と多様な専門分野の先生方がそれぞれの科目を想定し模擬授業を行った。分野は違っても、いかにして学生を参加させるか、板書をうまく活用するか、という問題意識を共有することができた。

私はこれまで大人数を対象とした授業の経験は浅く、大人数の中でいかにして学生を主体的に授業に引き入れているか、という点を課題として意識していた。模擬授業でも、私はその点を意識して学生（役）への問いかけを中心とした授業を実践してみたところ、興味深く参加できるとの評価もいただいたが、他方で、学生の答えの活用などの点で課題点を指摘していただいた。

対面での参加で、直接顔を合わせて多くの先生方と密な意見交換ができたことは非常に意義深いことであった。改善点のない授業はない。これからも常に改善に向けて歩み続ける教員でありたいと考える。

教育力アップセミナー

経済科学部 中西 正

本セミナーは、入職2年以内の教職員を対象として実施され、大学を取り巻く環境や本学の強みを整理し、少子化や広島県の転出超過問題に付随する大学の充足定員割れ問題にどのように対処すべきか、それぞれの観点から検討した。

グループ内で異なる資料が配布され、他グループで同じ資料が配られた教職員と意見交換を実施し、当初のグループに戻り、それぞれが各資料を基に得られた知見から今後の大学の在り方について議論を行った。例えば、私が担当した資料には、18歳人口予測や大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向などの情報が記載されていた。

総務省が公開している住民基本台帳人口移動報告の中に年齢階層別の転出人数が公開されている。15歳から19歳の階級よりも大学等を卒業する年齢階級である20歳から24歳で転出のピークを迎えている。また、配布された資料には大学入学者の都道府県別18歳人口減少率と地元残留率を比較したデータがあり、広島県を見ると、2036年までの予測では18歳人口の減少率が低く地元残留率が高い県の一つであった。短期的に考えると、県内で進学を目指す学生は少なくないが、高校生にとって進学したい大学であるために教職員が何をすべきかを議論し提案した。

セミナーやその後の懇親会では、普段交流することのない教職員と時間を共にすることができ非常に有意義な交流会になった。

第15回教育力アップセミナー研修参加報告

財務課 垣元 貴文

本セミナーは、2010年度より実施しており、在職2年目以内の教職員を対象とし、組織的な教育力を高めることを目的としている。冒頭に松川学習支援センター長より、アクティブラーニングの手法やIRについて説明がなされた。その後、実際にその手法を活用したグループワークでは、「どうすれば入学定員を充足できるか」をテーマとして、本学を取り巻く社会状況及び本学の現状に関する各種データ資料を読み取り、グループごとに意見をまとめて発表を行った。限られた時間の中でデータ資料を正確に分析し、改善策を導き出すことに難しさを感じたが、各部局間でそれぞれの意見交換を行うことで自分自身では気づけない事が見えてくる事が多々あった。

本セミナーにより、自分自身の業務においても、データから正しく現状を把握し、適切な判断をするためにIRの視点を持つことの重要性を感じた。また、大学の現状と課題、改善策について考える機会となった。この経験を活かして業務に従事し、能力向上に努めていきたい。

教育力アップセミナー参加報告

教務第2課 氏平 穂乃花

本セミナーは、アクティブ・ラーニングの手法を体験的に学ぶとともに、本学の現状や課題、改善策についてデータに基づいて考え、教職員相互の理解を深めながら今後の課題改善に向けた協力関係を構築することを目的として実施された。

まず、FD・SDの制度的背景やアクティブ・ラーニングの考え方、IRの役割について説明があり、エンロール・マネジメントにおけるデータ活用の重要性について理解を深めたのち、グループワークを行った。グループワークでは、ジグソー法というアクティブ・ラーニングの手法を用い、「どうすれば入学定員充足を維持できるか」というテーマについて、さまざまなデータをもとに議論した。各自が担当した情報を共有し、組み合わせながら議論を進めることで、本学の現状や課題、今後の方向性を多角的に捉えることができ、複数のデータを関連づけて考えることの重要性を実感した。また、他のグループの発表を通して着眼点の違いに触れることで、自身の検討内容を振り返り、考えをより深めることができた。

学部や部署の異なる教職員と研修を行った経験は有意義であり、今回得た知識や経験を今後の業務に活かしていきたい。



広島修道大学
Faculty Development
NEWS LETTER
Staff Development

発行日 2026年3月12日
発行者 広島修道大学
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL. (082) 830-1105
ホームページ <https://www.shudo-u.ac.jp>
E-mail jinji@js.shudo-u.ac.jp